



# アート・デザインを取り巻く未来の「研究会」のかたち

Introduction of New Approaches to Create Future Research Communities Based on Art and Design

笈康明 (東京大学), 渡邊淳司 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所), 緒方壽人 (Takram),  
今野恵菜 (山口情報芸術センター), 藤井樹里 (東京大学), 藤波秀麿 (東京大学),  
渡邊英徳 (東京大学), 岩井大輔 (大阪大学), 長谷川晶一 (東京工業大学),  
馬場哲晃 (首都大学東京), 山岡潤一 (東京大学), 苗村健 (東京大学)

Yasuaki KAKEHI, Junji WATANABE, Hisato OGATA, Keina KONNO, Juri FUJII,  
Hidemaro FUJINAMI, Hidenori WATANAVE, Daisuke IWAI, Shoichi HASEGAWA,  
Tetsuaki BABA, Junichi YAMAOKA and Takeshi NAEMURA

**概要:** 昨今様々な教育改革, 学びのあり方が企図・議論される中, 一方向的・受動的な学習にとどまらず, 自ら学び, 仲間を集め互いに教え合う関係の醸成に注目が集まる. 本セッションでは, 山口情報芸術センター, 情報環世界研究会, 東京大学制作展のそれぞれの取り組みを中心に, 既存分野の壁を越え, 新しい考え方や知識, スキルの共有と発信, コミュニティの創出に挑む学際的アプローチの実践事例紹介および議論を行う.

**キーワード:** アート&エンタテインメント, デザイン, 研究会, 学び, コミュニティ

## 1. 本セッションについて

本セッションは, VR 学会アート&エンタテインメント研究委員会の企画として行われる. 昨今様々な教育改革や学びのあり方が企図・議論される中, かつてイヴァン・イリイチが提唱したように[1], 専門家から教えてもらうのみの一方向的・受動的な学習にとどまらず, 自ら学び, 仲間を集め互いに教え合う関係の醸成に注目が集まっている. 本セッションでは, アート・デザイン領域を中心に新しい学びのあり方や, 研究コミュニティの創生の可能性について考える. 特に, 2019 年 9 月に「SFPC (School for Poetic Computation) Summer 2019 in Yamaguchi」を招致・企画した山口情報芸術センターの取り組み, 2017 年度より ICC にて展開された研究会「情報環世界研究会」の取り組み, 東京大学で工学系を専攻する学生を中

心に新たなメディア表現のあり方を毎年提示する「東京大学制作展」の取り組みを例に取り, 必ずしも既存の学校や組織の枠にとらわれずに学際的に展開される活動について, それぞれ企画・運営者や参加者の立場から動機やプロセス, 成果例などを紹介し, 議論を行う. 実用と表現, 研究と社会などの壁を越え, 考え方や知識, スキルの創出・共有・発信に挑むこれらの取り組みから, 今後のアート・デザイン領域での新しい価値創造や学びの機会を拓けるアプローチのヒントを得たい.

## 参考文献

- [1] Ivan Illich: Deschooling Society, Harper & Row, 1971.